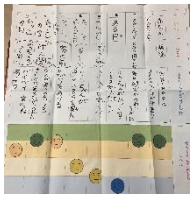
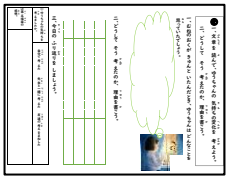
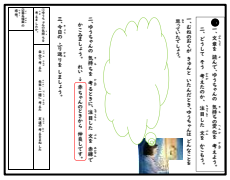
4～6年	国語	「手紙を書こう」 9時間	概要	個別の目標と評価、ルーティン化 教材選択「ともだちのひっこし」	適　△
手立て	○授業の流れをルーティン化する。 ①音読 ②言葉の確認 ③主人公の気持ちを一人で考える。 ④発表し、友達と共有する。 ○ユニバーサルデザインを取り入れた授業の工夫。 ・挿絵を選択し、児童一人ひとりの想像を膨らませやすくする。 ・挿絵だけでなく、その場面の状況を動作や寸劇で表現する。 ・気持ちの変容をきもちグラフで表すことで、目に見えない心の変化を読み取れるようにした。  ○ワークシートを２種類用意し、児童自身に選ばせる。   ・主人公の気持ちや思いを枠の中に文章で書くワークシート。 ・主人公の気持ち、絵カードを見て、理由を考えるワークシート。 ○児童の経験に基づいた題材選び。 ・昨年度、同級生が転校し、共感しやすいから、「ともだちのひっこし」を選択。	児童の様子	◎見通しをもって活動できる。 ③自分の意見を一人で考えることができない児童が１，２人いた。 ・視覚的に情報と取り入れやすい児童にとって、挿絵を見て想像を膨らませることができた。 ・一方で、挿絵を豊富にしてしまうと、想像を狭めてしまう可能性がある。 →挿絵の量を調節する。 ・情景を想像し、主人公の気持ちに寄り添う手掛かりとなった。 ・全員で一つのグラフに表すことが難しかった。一人ひとりの考えが異なる場面だったため、話し合いが活発になった。 →自分の意見とその理由を話せるようにする。 ・自分の能力に合わせて自己調整することができた。書くことが苦手な児童にとっても、短い言葉で書くことができた。 ・児童によっては、こだわりにより、同じプワークシートを選ぶ児童もいたので、実態に合わせて言葉掛けを行う。 ○自分の経験と照らし合わせながら、主人公の気持ちを想像させることができた。
成果	・ユニバーサルデザインを取り入れることで、主人公の気持ちを考える手がかりとなった。 ・少人数グループで話し合う活動を取り入れることで、経験が積まれている。グループでの活動では、友だちと協力して課題を解決しようとする姿が見られた。	課題	・児童と教員の一問一答形式の授業になりやすく、一人一人が考える時間が短かった。 ・他者と意見を交換し合い、考えを深め、広げるような工夫が必要だと感じた。		